

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 鳥取県立岩美町立岩美北小学校
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒681-0003
鳥取県岩美郡岩美町大字浦富2128
E-mail iwamin-e@mailk.torikyo.ed.jp
Website http://www.torikyo.ed.jp/iwamin-e/
幼児児童生徒数 男子102名 女子109名 合計211名
幼児・児童・生徒の年齢6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「夢や希望を持って、なかまとともに元気良くのびる児童の育成」をテーマとしている。ESDを、①児童が主体的に課題に向かって追究していくことで、学びへの意欲が高まる、②友達同士で協同的に取り組むことによって、話し合いや協力する必然性が生じ、その過程でより深いつながりをつくっていくことができる、③学習対象を地域の素材とし、自らが地域とのふれあいを開拓していくことで、地域への誇りや愛着を持ち、そこから世界へつながっていけるようになる、と捉えている。そして、ESDの実践を通して、子どもたちがコミュニケーション能力を高め、お互いを思い合う言葉や行動を身につけること、地域とのつながりを深めることによってふるさと岩美町への誇りと愛着を深めていくこと、自分から主体的に学ぶ意欲を高めていくこと、の3点を育成していくことを目標としている。具体的には、①人権に係わる活動、②食育に係わる活動、③ジオパークに関わる活動を行った。

① 福祉・人権に係わる教育

- ・盲導犬のユーザーに話を聞いたり、盲導犬とふれあったりする活動を通して、ユーザーの生活や思いに触れたり、まちで出会った時の声のかけ方や案内の方法を学び、体験したりした。また、点字や白杖などについても学び、でき

ることを考え、文章にまとめた。自分たちの住むまちには、様々な人がいることを知り、自分たちができることを考え、実行しようとする心情と態度を育てた。(3年)

- ・車いすバスケットボールの体験活動や平成29年9月に鳥取県で制定された「あいサポート条例」について学ぶことを通して、福祉や自分たちの身の回りの生活について見つめ、よりよい仲間づくりやよりよい社会を作っていく担い手として、今自分たちに出来ることは何かを考えた。学習発表会で発表し、その後も「自分たちができる日々の生活の中でのあいサポート運動」についても考えた。この活動を通して、児童は、障がいがある人のための運動ではなく、自分たちの日々がより豊かになるための運動であることに気付くことができた。(6年)

② 食育に係わる学習

岩美町にゆかりのある特産物や作物について調べ、それらの食材を使ってオリジナルメニューを考え、食すことで、岩美町についてより具体的に理解することをねらい、活動を行った。岩美町で育てられている食材や岩美町で採ることのできる食材について調べたり、実際に話を聞いたりした。そして、調べた食材を使って、メニュー作りを行った。また、田植え体験をして、田植えや米ができるまでの手入れの大変さを理解し、作った米を使って、カレーライスを作り、みんなで食した。これらの活動を通して、児童は、自分たちの住む町には、他の市町村に誇れる食材や環境があることを再認識し、より自分たちの町のよさを実感することができた。(5年)

③ ジオパークに係わる学習

ジオパークの一部である熊井浜に出かけ、生き物観察を行った。体験を通して自然の素晴らしさに触れるとともにそれらを守っていこうとする意識の高まりをめざした。また、自分たちが調べたことを新聞にまとめ、他県の人々へ発信することで、情報収集能力や集めた情報を構成してまとめる力、友達と積極的に関わっていく態度の育成をめざした。(4年)



盲導犬のユーザー、盲導犬との交流



車いすバスケットボール体験



カレー作り



熊井浜での生き物観察

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他（ふるさと(岩美町)への誇りと愛着　　)	

■ 1. 教科の時間	■ 2. 総合的な学習の時間
■ 3. 特別活動等	■ 4. クラブ活動
□ 5. その他(自由記述)	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、生活科・総合的な学習の時間を中心にして人権、食育、環境、ジオパーク、福祉に関して課題解決型の学習を展開している。また、クラブ活動の中でも地域の伝統文化について触れる活動を設定している。人との交流、体験を通して課題を見つけたり、分かったこと、感じたことなどを発信できる力を身につけたりすることができるように努めている。発信方法についても、学習発表会や新聞作りなどで他教科とも関連させながら学習した内容を生かせるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域のボランティアの確保、専門的な人材、施設等の情報の共有など管理職を中心に行っている。また、担任は、本年度の学年の活動内容や人材について次年度へ引き継ぎを行っている。活動に関して、3年生は福祉、4年生は環境、5年生は食育、6年生は人権などと学年間で主な活動を設定し、6年間を通して様々な分野の学びができるように取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に職員研修で年間指導計画の見直しを行い、次年度への改善点、継続事項などを示している。また、学習発表会で活動内容を発信した場合には、参観者（保護者、地域の方など）から感想をいただき、評価としている。日々の学習の振り返りは児童の自己評価となっている。成果としては、様々な人、自然と触れ合うことで児童の視野が広がっていることが挙げられる。課題としては、年間の限られた活動時間の中で見通しをもって活動していく力をつけることである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学習発表会、新聞の作成・配布などで活動について発信をしている。新聞については、ふるさと納税の返礼品に同封してもらい、他県の方へも届けている。発信相手を他県の方、地域のお年寄りの方、自分より小さい子どもなど明確にすることで、児童は、より分かりやすく伝えるための表現方法の工夫を考えるようになっている。また、感想やお礼の手紙をいただくことで意欲の向上へとつながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

各学年の取り組みにおいて、田後漁協組合、岩美町観光協会、ジオパーク「海と大地の自然館」、町内女性部、鳥取県車いすバスケットボール協会、鳥取ハーネスの会などの方々にご協力いただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在、交流は行っていないが、今後、機会をとらえて町内の他校との交流を図っていききたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

本年度も自校の特色を生かし、自然、文化、食育などを教材にして地域の方々の協力を得ながら活動していくことができた。活動を通して、児童が地域のよさを知り、地域を大切にしていきたいという気持ちを強くしたこと、地域の方と児童との関わり、関係がより近くなったことはユネスコスクールの活動による効果である。また、地域の方だけでなく、人権、福祉などの活動において出会った方々との交流も児童にとって自分の今後の生活のあり方を変えたり、考えたりしていくものとなった。

- （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も引き続き、生活科・総合的な学習の時間を中心に1年生は地域の方、保育園児と交流しながら、自然や生き物との触れ合いを行う。2年生は地域の方と野菜作りと調理、3年生は福祉、4年生は環境、5年生は食育、6年生は人権に関する活動を行っていく計画である。特別活動では、クラブ活動での和太鼓、地域の踊りなどの文化伝承、栄養教諭による年間を通じた食育指導、サケの孵化、稚魚の飼育、外国人との交流「英語村」、盲導犬ユーザーとの交流などを計画している。